

Society Copyright Policies in Japan

プロジェクトの概要

- 本プロジェクトでは、学術論文の機関リポジトリへの登録を推進することを目的として、次のような活動を行っています。
- ①学協会の機関リポジトリに対する論文掲載許諾状況について調査する。
 - ②調査結果に基づき「学協会著作権ポリシーデータベース」(SCPJ データベース)を作成・公開する。
 - ③機関リポジトリへのコンテンツ掲載許諾を得るため、学協会に対し啓蒙・プロモーション活動を行う。

より多くの学協会のポリシーを明らかに

平成 19 年度は、これまで行った調査において、機関リポジトリへの論文掲載を検討中と回答した学会や、未回答の学会を中心に、独自の調査を行いました。

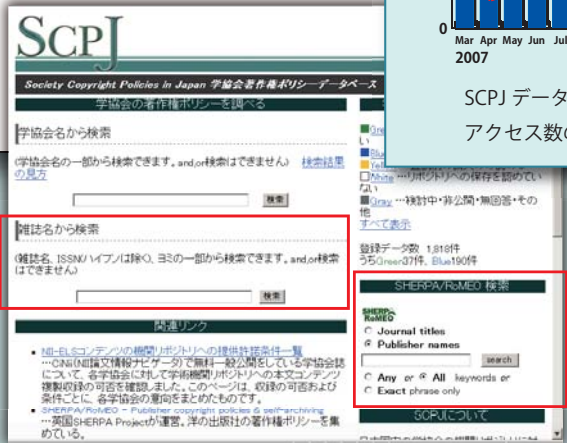
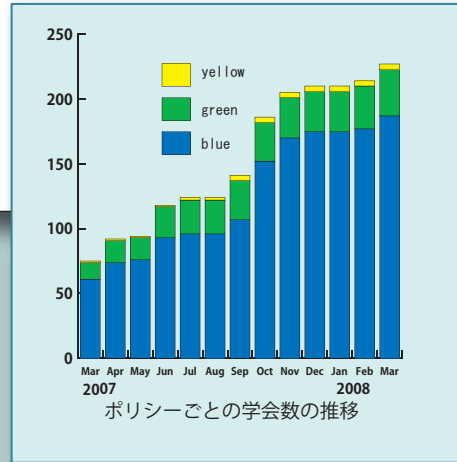
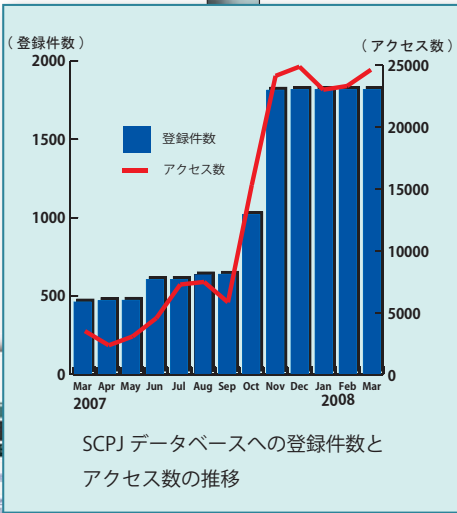
この調査結果に加え、各大学の機関リポジトリ担当者からお寄せいただいた情報や、国立情報学研究所からご提供いただいた「NII-ELS コンテンツの機関リポジトリへの提供許諾条件一覧」・「SPARCJapan パートナー誌カタログ 2008」に基づき、SCPJ データベースのデータの充実を図りました。さらに、「学会名鑑 2007-09 年版」に掲載された学会のデータをすべて SCPJ データベースに収録しました。

この結果、2007 年 3 月に 462 学会だった SCPJ データベースの登録数は 2008 年 3 月には 1818 学会となり、そのうち、学会誌に掲載された論文を何らかの形で機関リポジトリに掲載可能とする学会の数は、75 から 225 までに増加しました。

より使い易いデータベースに

SCPJ データベースは 2007 年 7 月にデザインを一新し、全面リニューアルしました。その後も、雑誌名からの検索を可能にしたり、SHERPA/RoMEO の検索窓を設定したりするなどして、より使い易いデータベースを目指して改良を重ねています。

SCPJ データベースへのアクセス件数は、データの充実とともに急速に増加し、現在では、1ヶ月あたり 2 万 5 千件ものアクセスがあります。



リニューアルした SCPJ の Web サイト

学協会の皆様の理解を得るために

本プロジェクトの活動に関するチラシを作成し、2007 年 11 月 9 日に開催された図書館総合展において関係者に配布しました。

また、第 3 回 DRF ワークショップでのパネル・ディスカッションに学協会関係者らとともに出席し、意見交換を行いました。

さらに、SCPJ の Web サイトに学協会の皆様に向けたページを作成しました。



学協会の皆様を対象としたチラシと Web ページ



2008 年、SCPJ プロジェクトは新たなステージへ

2008 年 1 月、デジタルリポジトリ連合 (Digital Repository Federation: DRF) 参加大学のメンバーと共に英国のノッティンガム大学を訪問し、SHERPA/RoMEO データベースの構築に携わっている方々とのミーティングを行いました。

ミーティングでは、日本における著作権ポリシーの問題に対する取り組みとして、SCPJ プロジェクトに関するプレゼンテーションを行うとともに、連携についても提案を行い、SHERPA 側から大変ポジティブな回答を得ることができました。さらに、大阪大学において 1 月 30 日・31 日に開催された DRF 国際会議 2008 では、オーストラリアの Oak Law Project をはじめとする同様の取り組みを行っている各国の組織とミーティングを行い、悩みを共有するとともに、それぞれの活動を国を超えて連携することにより国際的な大きな流れを実現したいとの共通の目標を確認することができました。

今後は、機関リポジトリへの論文の掲載を不可もしくは検討中としている学協会に対し引き続き働きかけを行うと同時に、SCPJ データベースの収録対象を、学協会だけでなく出版社にまで広げていくことに加え、たとえば著作権ポリシーに関する国際的ポータルサイトの構築といった、連携を実現する方策について検討していきたいと考えています。